

Manus を活用した知財業務の効率化と高度化

エグゼクティブサマリー

本報告書は、知財業務（特許調査、先行技術調査、明細書作成、要約、侵害リスク分析、契約書レビュー、出願戦略立案、証拠保全等）におけるManus 1.6の実務適用を、機能・制約・ガバナンスを前提に「どう安全に、どこまで任せられるか」を分析します。Manus 1.6は、フラッグシップのMaxエージェント、モバイル開発、Design Viewを柱とし、コアのエージェントアーキテクチャ更新を掲げています。¹

知財業務には「(A)大量の情報源を広く集める」「(B)構造化して比較・要約する」「(C)ドラフト（骨子）を高速に作り、専門家が精査して仕上げる」という工程が多く、ここにManusの**Wide Research（並列マルチエージェント）**と**タスク型API**を組み合わせると、調査・集計・初期ドラフトの“生産ライン化”が現実的になります。Wide Researchは多数の独立エージェントを並列投入し、項目数増加で品質が劣化しやすい「コンテンツ制約」を回避する設計で、1.6ではMaxがサブエージェントに適用される旨が説明されています。²

一方、知財領域での最大リスクは「誤情報（ハルシネーション）」「機密（発明内容・営業秘密・個人情報）の漏えい」「証拠性（誰がいつ何を根拠に作ったか）喪失」です。第三者ベンチマークDeepResearchEvalでは、Manusは“事実性比率”が高い一方、総合品質スコアは上位ではなく、「**虚偽の抑制には強みがあるが、網羅性・洞察は設計と運用に左右され得る**」という示唆になります（この評価は2025年8-9月収集で、1.6（2025/12/15）そのものの評価ではない点に注意）。³

実装面では、Tasks APIが `agentProfile`（`manus-1.6 / -lite / -max`）と `taskMode`（`chat / adaptive / agent`）を提供し、共有リンクの生成可否やタスク一覧非表示などの制御も可能です。⁴ OpenAI互換SDKも用意され、`base_url="https://api.manus.im"` と `API_KEY` ヘッダで利用できますが、**アップロードURLは短時間で失効し、アップロードファイルは48時間で自動削除**されるため、知財案件では“自社側の証跡・成果物保管”が必須になります。⁵

ガバナンス面では、TeamプランではタスクがTeam Ownerに可視であること、共有リンクを有効化すると第三者に公開され得ること、そしてコンプライアンス用途のE-Discovery/データエクスポートAPI（監査用requestId等）を別システムで提供していることが重要です。⁶ 加えて、Meta⁷ による買収・規制審査を巡る報道（規制当局レビュー等）は、ベンダーリスク/地政学リスクとして知財ガバナンス（契約・データ移転・継続性計画）に織り込む必要があります。⁸

結論として、知財業務におけるManusの適用は「全面自動化」ではなく、(1)入力機密度を分類し、(2)Wide Research+Maxを“調査・抽出・ドラフト”に限定運用し、(3)専門家レビューと監査ログ保全を組み込む、という**セーフティ・バイ・デザイン**が最も実装しやすい形です（具体案は後述）。⁹

目的・範囲と想定ワークフロー

本節は「知財業務のどこにManusを差し込むか」を、作業工程として定義します。外部特許DBや社内知財DBの名称・API可否は依頼文で未指定のため、連携先DBは原則「未指定」とし、必要に応じて例示に留めます（例示は利用規約・スクレイピング可否の確認が前提）。

適用範囲マップ

知財業務	Manusの推奨役割（一次成果）	人の役割（最終責任）	典型アウトプット	補足
特許調査（技術動向・競合）	Wide Researchで候補収集→表に構造化	調査式・範囲の確定、重要文献の精読	技術分解表、競合マップ	Wide Researchは並列で大量処理向き ¹⁰
先行技術調査（出願前）	クエリ案生成、分類軸（IPC/CPC等）案、候補要約	調査式確定、関連度判断、引用根拠の検証	候補群+要約+関連度タグ	外部DB連携は未指定
特許明細書作成（ドラフト）	構成案、実施形態の叩き台、請求項の骨子	新規性/サポート要件、表現の法的適否	明細書ドラフトv0.1	高機密になりやすい（後述の安全設計必須）
要約（社内共有・開示）	長文→短文、比較表、論点集約	誤り修正、開示可否判断	技術要約、1枚サマリ	共有リンク運用に注意 ⁴
侵害リスク分析（FTO含む）	主要クレームの分解、仮説マッピング（claim chart骨子）	製品仕様照合、法的評価、反証調査	クレームチャート草案	高リスク領域（誤情報対策必須）
契約書レビュー（知財条項）	条項抽出、論点一覧化、修正案の叩き台	法的交渉・最終判断	リスク表、赤入れ案	秘密保持条項が鍵
出願戦略立案	競合分析、差別化ポイント整理	事業戦略整合、国際出願制約確認	優先順位案、出願ロードマップ	外国出願等の規制は案件依存 ¹¹
証拠保全（調査口グ、監査）	生成物・根拠URL一覧・手順の整形	保全ポリシー、法対応	監査用エクスポート、ハッシュ	企業向けExport APIが想定 ¹²
（例）商標調査、意匠、審判/訴訟、ライセンス交渉	未指定	未指定	未指定	依頼文で未指定のため範囲外

想定ワークフロー（共通骨格）

知財業務にManusを組み込む際、最も再利用性が高いのは「案件（matter）単位の標準工程」です。

- 1) **案件受付（Invention Disclosure/調査依頼）**：目的・対象・期限・機密度（公開/社外秘/営業秘密/個人情報含む等）をメタデータ化。
- 2) **入力整形**：資料（発明説明、図面、既存ドラフト、契約書、製品仕様）を“最小限の必要情報”に整形（後述のデータ最小化）。¹³
- 3) **Manusタスク投入**：用途に応じ `taskMode` と `agentProfile` を選択し、必要であればインタラクティブに追質問を許可。⁴
- 4) **一次成果の受領**：表形式・比較マトリクス・ドラフトなどを受け取り、社内DMS/案件管理へ格納（Manus側のファイル保持48時間制約に備える）。¹⁴
- 5) **専門家レビュー**：先行技術の関連度、クレーム解釈、契約条項の法的評価など“高リスク判断”は必ず人が行う。

6) 証跡化：入力・出力・採否理由・参照URL/文献ID・レビュー者・日時をログ化し、必要に応じてエクスポートAPIで監査対応。¹⁵

技術的適合性と統合実装

本節は、Manus 1.6の機能（Wide Research / Design View / Max / API / 48時間保持など）を、知財業務へ“どう当てはめるか”を具体化します。Manus 1.6はMax・モバイル開発・Design Viewを追加し、コアアーキテクチャ更新を掲げています（ただし、基盤モデル構成・学習データ更新の詳細は公式リリースノート上は未指定）。¹⁶

機能/制約対照表（知財向け）

Manus 1.6 の機能・制約	何ができるか（公式記述ベース）	知財業務への適用例	実装・運用の勘所
Wide Research	多数の独立エージェントを並列展開し、項目ごとに専用コンテキストで処理 ¹⁰	先行技術候補100件の“要約+分類+根拠”を一括生成	1.6ではMaxがサブエージェントに適用され得る ¹⁷
Wide Researchの制約	有料ユーザーのみ、手動ONではなく自動トリガー、サブタスクのクレジット上限50 ¹⁸	検索式のバリエーションを多数用意し、分割可能な設計で“自動起動”を誘発	APIで明示指定できないのでは、というコミュニティ疑問あり（未確定） ¹⁹
Maxエージェント	計画・問題解決アーキテクチャ強化、二重盲検で満足度+19.2%等（内部指標） ¹	侵害リスク分析の論点整理、複数国出願戦略の比較など“多段推論”に投入	内部ベンチのため、PoCで自社KPI検証が必須
Design View	Mark Toolで局所編集、画像内テキスト編集、合成。Design ModelはNano Banana Pro (Google) ²⁰	図面・説明図の「叩き台」作りや、社内説明資料の図解作成	特許図面の方式適合（線種・寸法等）は人が最終確認
Tasks API	<code>agentProfile</code> (1.6/1.6-lite/1.6-max)、 <code>taskMode</code> (chat/adaptive/agent) 等を指定 ⁴	バッチ調査 (agent)、対話型ドラフト (adaptive+interactive)	共有リンク生成やタスクリスト非表示も制御可能 ⁴
OpenAI互換SDK	OpenAI Python SDK 1.100.2まで互換テスト、 <code>base_url=https://api.manus.im</code> 、APIキーは <code>API_KEY</code> ヘッダ ²¹	既存のLLM基盤 (OpenAI SDK依存) から差し替え統合	Python 3.10+が前提 ²²
ファイル保持	presigned upload URLは短時間で失効、アップロードファイルは48時間で自動削除 ¹⁴	明細書ドラフト・契約書レビューの添付	自社DMSへ即時退避（証拠性・再現性のため）
共有リンク	<code>createShareableLink</code> で公開リンクを生成でき、公開すると第三者アクセスの可能性 ²³	外部弁理士/法務への共有	機密案件では原則OFF+例外承認制

Manus 1.6 の機能・制 約	何ができるか（公式記述ベース）	知財業務への適用例	実装・運用の勘所
Team可視 性	TeamプランではTeam Ownerがメン バーのタスクを閲覧可能 ²⁴	内部統制・監査	Owner権限の分離 （情報システム/法 務）を検討
コンプライ アンスAPI	eDiscovery/法的保全/監査向け、承認 用途で提供 ²⁵	証拠保全、内部監査	Export APIで requestId等、監査 前提の設計 ¹⁵

必要なプラットフォーム要件と統合手順

ハードウェア要件（知財業務で重要な観点）

Manusはクラウドで非同期にタスクを実行し、API連携の場合もクライアント側は一般的なサーバ環境でよい設計です（ローカルGPU等の要件は公式には示されていません=未指定）。一方、OpenAI互換SDK例ではPython 3.10+が前提となっています。 ²⁶

OpenAI互換SDK（実装手順の最小構成）

OpenAI Python SDKを用いる場合、`base_url` をManusに向け、実キーは `API_KEY` ヘッダで渡す方式が公式例です。 ²¹

擬似コード（最小）：

```
# 0) 設定（環境変数・Secrets Manager推奨）
BASE_URL = "https://api.manus.im"
MANUS_API_KEY = secret("MANUS_API_KEY")

# 1) OpenAI互換クライアント初期化（SDKはopenai==1.100.2まで互換テスト済み）
client = OpenAI(
    base_url=BASE_URL,
    api_key="placeholder",
    default_headers={"API_KEY": MANUS_API_KEY},
)

# 2)（任意）ファイルを事前アップロード（URLは短時間で失効・ファイルは48hで削除）
file_id = upload_file_and_get_file_id(client, "invention_disclosure.pdf")

# 3) タスク作成：目的に応じてtask_mode/agent_profileを指定
resp = client.responses.create(
    input=[
        {"role": "user", "content": [
            {"type": "input_text", "text": PROMPT},
            {"type": "input_file", "file_id": file_id},
        ]},
    ],
    extra_body={"task_mode": "agent", "agent_profile": "manus-1.6-max"},
)
```

4) 非同期：statusがcompletedになるまでポーリング or Webhook

```
final = poll_until_done(client, resp.id)
```

5) 成果物を自社DMSに保存（監査ログ・ハッシュ・アクセスログを付与）

```
store_to_dms(final.output, matter_id)
```

要点：① base_url=https://api.manus.im、②認証は API_KEY ヘッダ、③タスクは非同期で running/pending/completed/error 状態を持ち、④アップロードURLは短時間で失効し、ファイルは48時間で自動削除されます。 5

Tasks API (REST) での統合ポイント

POST /v1/tasks で agentProfile と taskMode を指定でき、返却に share_url が含まれます。公開リンク生成の可否 (createShareableLink) や、タスクリスト非表示 (hideInTaskList) もパラメータとして明示されています。 4

外部DB（特許DB・社内DB）との連携方法（未指定扱い）

連携先DBは未指定のため、設計パターンのみ提示します。

- パターンA（API連携）：外部DB→自社側で取得→Manusへ“要約対象として添付/テキスト投入”。
- パターンB（MCP/統合）：Manusの統合機構（OAuth/APIキー）で内部システムに接続（自社でCustom MCP Serverを実装）。（接続可否は自社システム次第=未指定） 27
- パターンC（手動+監査）：検索は専門DBで人が行い、結果リストをManusへ渡して比較・要約・表化のみ委任。

参考データフロー図（フローチャート）

flowchart TD

```
A[知財担当/弁理士] --> B[知財ポータル/案件管理]
B --> C{機密度分類}
C -->|公開/低機密| D[入力整形（最小化）]
C -->|高機密/営業秘密/個人情報| E[マスキング/仮名化 + 承認]
D --> F[Manus Tasks API / OpenAI互換SDK]
E --> F
F --> G[一次成果（要約/比較表/ドラフト）]
G --> H[専門家レビュー（採否/修正）]
H --> I[自社DMS/証跡ストア]
I --> J[監査ログ（ハッシュ/アクセス）]
```

subgraph 制約

```
K[添付ファイルは48hで自動削除]
```

end

```
F -. -> K
```

subgraph コンプライアンス

```
L[Compliance / Data Export API]
```

end

```
J --> L
```

この設計の肝は、Manus側を“処理エンジン”として使いつつ、**証拠性・再現性・保全是自社側で担保**することです（48時間保持制約に整合）。²⁸

効率化効果の定量化案と品質評価

KPI設計（ベースライン未指定のためPoCで測定）

ベースライン（現状工数・単価・精度）は依頼文で未指定のため、以下は「測定設計」と「KPI候補」を提示します。数値目標はPoCで現状値を取り、同一条件でA/B評価してください。

KPI	定義	測定方法（例）	ベースライン	目標（例・推定）
調査工数（時間）	先行技術調査に要した総時間	タイムトラッキング+作業分解（検索/精読/要約/整理）	未指定	-30~50%（推定）
直接コスト	外部調査費・外注費・内部人件費	原価計算（案件単位）	未指定	-10~30%（推定）
検索網羅率（近似）	“重要先行技術”の捕捉率	専門家がゴールドセット作成→ヒット率	未指定	+10~20pt（推定）
誤検出率（近似）	重要でない候補の混入率	上記ゴールドセットで精度評価	未指定	-10~20pt（推定）
ドラフト初版までの時間	明細書v0.1まで	受付→v0.1生成までの経過	未指定	-25~40%（推定）
レビューサイクル	v0.1→提出版までの回数/日数	版管理ログで集計	未指定	-1サイクル（推定）
監査再現性	“誰が何を根拠に”の追跡可能性	ログ完全性（必須項目充足率）	未指定	95%+（推定）

KPIの棒グラフ（推定例）

以下は「導入後の改善率（%）」の仮置き例であり、実数ではありません（推定）。PoCの測定で置き換えてください。

```
xychart-beta
  title "知財業務KPI 改善率（推定例）"
  x-axis ["調査工数", "ドラフト時間", "レビュー周期", "誤検出率", "直接コスト"]
  y-axis "改善率（%）" 0 --> 60
  bar [45, 35, 25, 20, 15]
```

品質・信頼性評価の外部根拠と、知財業務への含意

第三者ベンチマークDeepResearchEval (arXiv) では、9つのDeep Researchシステムを同一枠組みで評価し、Manusは「検証可能文に対する正しさ比率（Ratio）」が **82.30%** と最上位で、Right/Wrong/Unknownの平均も提示されています。一方、品質スコア（別表・複数判定）では上位ではなく、総合品質は設計・プロンプト・統合で左右され得ます。²⁹

また、同論文のシステム出力収集は2025年8-9月であり、Manusの収集期間は2025/8/28-9/8と記されています。

す。したがって、**Manus 1.6 (2025/12/15) そのものの性能を直接示すものではない**点に留意が必要です。

30

比較表 (DeepResearchEvalの公開数値) :

システム	事実性 Ratio	Wrong	Unknown	収集期 (年は2025)
Manus	82.30%	2.23	8.02	Aug 28 – Sep 8 ³¹
OpenAI ³² Deep Research	76.21%	2.72	8.22	Aug 27 – Sep 8 ³¹
Gemini-2.5-Pro Deep Research	76.62%	4.16	16.18	Aug 19 – Aug 26 / Sep 5 – Sep 6 ³¹
Anthropic ³³ Claude-Sonnet-4.5 Deep Research	60.72%	6.16	16.35	Aug 19 – Aug 28 ³¹
Perplexity ³⁴ Deep Research	58.94%	9.08	16.10	Aug 22 – Aug 26 ³¹
xAI ³⁵ Grok4 Deep Research	61.81%	5.44	12.57	Aug 28 – Sep 1 ³¹
Alibaba ³⁶ Qwen-3 Deep Research	72.39%	3.36	6.34	Aug 29 ³¹
ByteDance ³⁷ Doubao Deep Research	69.50%	7.43	17.20	Aug 19 – Aug 26 / Sep 1 – Sep 7 ³¹
DeepSeek ³⁸ Deep Research	76.44%	1.81	4.10	Nov 10 ³¹

知財業務への含意:

- **良い兆候**: Ratioが高い=検証可能な主張の誤りが相対的に少ない可能性。先行技術要約・条項抽出の“取り違い”を減らせる期待。 ³⁹
- **注意点**: Unknown (根拠不十分) の残存は、知財では禁物です。実務では「引用元ID (公報番号/条文番号/条項番号)」を必須出力にし、Unknownを“未確定”として残す運用が必要です (推奨運用)。 ³⁹
- **1.6固有の上積みは別途検証**: 1.6 Maxはタスク成功率や満足度+19.2%等を掲げますが、内部ベンチであり、知財KPIでの再検証が必要です。 ¹

法務・コンプライアンス・データガバナンスとリスク緩和

本節は、知財特有の「機密」と「証拠性」を中心に、Manus導入時の安全設計を提示します。各社の社内規程・委託契約・越境移転要件は個別事情で異なるため、以下は一般的な設計視点です (法的助言ではありません)。

データ保持・権限・所有権 (Manus側の前提)

- **ファイル保持**: アップロードURLは短時間で失効し、アップロードファイルは48時間で自動削除されます。知財資料は「Manusに保存させる」前提が置けないため、**自社側でDMS/監査ストアへ即時回避**が必要です。 ¹⁴
- **共有リンク**: Tasks APIで公開共有リンクを生成可能で、公開設定は第三者閲覧リスクを生みます。ヘルプセンターも共有操作 (public access) を案内しています。 ²³
- **Team可視性**: TeamプランではタスクがTeam Ownerに可視であると明記されています。従って、権限設計 (Owner=誰か) は内部統制そのものです。 ²⁴

- ・生成物の所有権：ヘルプセンター（日本語）は、Manusで作成したコンテンツはユーザーが所有し、ManusがInput/Outputの所有権を主張しないと説明します。一方、AI出力が一意でない可能性・知財保護されない可能性・法的コンプライアンスはユーザー確認が必要と注意しています。⁴⁰

セキュリティ証明と監査（“ある/ない”の切り分け）

セキュリティページではSOC 2 Type 1/Type 2、ISO/IEC 27001:2022、ISO/IEC 27701:2019を掲げています。

⁴¹

またTrust CenterにはSOC 2レターやISO証明書等のリソースが掲示される旨が示されています（取得・閲覧可否は契約条件等に依存し得ます＝未指定）。⁴²

個人情報・営業秘密・出願前機密の留意点（日本中心+GDPR）

- ・個人情報を扱う場合、個人情報保護委員会⁴³のガイドラインは安全管理措置等の考え方を示しています（具体的措置は事業の規模・性質に応じ判断）。⁴⁴
- ・GDPR適用がある場合は、データ最小化・保存制限等の原則（Article 5）が基本になります（一次資料として英国法令集にEU GDPR条文が掲示）。⁴⁵
- ・発明情報は営業秘密にも該当し得ます。営業秘密の定義はe-Gov法令検索で確認でき、経済産業省⁴⁶の「営業秘密管理指針」も三要件（秘密管理性・有用性・非公知性）を解説しています。⁴⁷
- ・出願前の機密性は、通常は自社管理ですが、特定分野では特許出願非公開制度など制度要件が絡み得ます（運用可否・対象は案件依存）。¹¹

安全設計案（知財業務向け）

設計原則：Manus側に“保管”を期待せず、自社側で「最小化・アクセス制御・監査・保全」を完結させる。

1) 入力最小化（データ分類→削減）

- 「要約・分類」には全文が不要な場合が多い。発明の核心（課題/手段/効果）を抽象化し、固有値・材料・寸法・顧客名などはマスキング。
- 個人情報原則除去し、必要なら仮名化して別表で管理（PPCガイドラインの安全管理措置の考え方に整合）。⁴⁸

2) 共有リンクの原則禁止+例外承認

- APIでも公開リンクを生成可能であるため、機密案件では `createShareableLink=false` をデフォルトにし、外部共有はレビュー承認と期限付きで実施。²³

3) Team Owner権限の分離

- Ownerが閲覧できる前提を踏まえ、Ownerを“情報システム+法務統制”に寄せ、知財担当個人への過度な集中を避ける（最小権限）。²⁴

4) 証拠保全（監査ログ+エクスポートAPI）

- Compliance APIsはDiscovery/法的保全/監査向けとされ、承認用途で提供。²⁵
- Enterprise Data Export APIは、法的保全や内部監査のためのエクスポートを想定し、`requestId`（追跡・監査）や理由（reason）等のフィールドを備えています。¹⁵
- 実務では「入力のハッシュ」「出力のハッシュ」「レビュー者」「参照文献ID」「採否理由」を案件ストアに格納し、必要時にエクスポートで提示できる形を推奨。

5) オンプレ代替の扱い

- Manus自体のオンプレ提供は公式資料上未指定です。高機密（営業秘密の核心・未公開発明）では、入力削減+社内隔離（送信禁止区分）を明確化し、“クラウドへ出さない工程”を残す設計が現実的です（代替手段の選定は別途検討）。

リスク対策マトリクス

リスク	典型シナリオ	影響	技術的対策	組織的対策
誤情報（ハルシネーション）	公報番号/条項番号の取り違い、クレーム要旨の誤読	誤った出願判断・FTO誤判定	“根拠ID必須”テンプレ、Unknownは未確定扱い ³⁹	専門家レビュー必須、二重チェック
機密漏えい（共有リンク）	公開リンク生成・誤送付	営業秘密喪失、出願前新規性毀損	公開リンクOFF、DLP、URL期限化 ²³	例外承認制、教育、インシデント手順
権限濫用（Team Owner可視）	Ownerが過度に閲覧	内部不正・情報統制破綻	Owner権限の分離、監査ログ ⁴⁹	職務分掌、定期監査
データ保持制約	48hで添付消失→再現不可	証拠性・再現性が欠落	自社ストア退避、ハッシュ ²⁸	保管責任の明確化
ライセンス/著作権リスク	AI出力が第三者権利侵害	紛争・差止	出力物の権利チェック（画像/文章） ⁴⁰	審査プロセス、外部弁護士確認
課金リスク（クレジット）	想定以上に消費、月末で失効	コスト超過・停止	事前見積（小分け実行）、上限設定	月次予算化、消化計画 ⁵⁰
規制/地政学リスク	ベンダー体制変化・規制審査	継続性、越境移転	継続性計画、データ移行手順	契約条項、代替経路準備 ⁸

導入ロードマップ・コスト見積り・運用チェックリスト

実装アーキテクチャ案（API連携パターン）

パターン1：バッチ先行技術検索（候補の要約・分類）

- 入力：検索式案（未指定DBで実行した結果リスト）＋候補文献（URL/公報PDF）
- Manus：Wide Researchを誘発する“多数項目の同型処理”で、要約・分類軸・関連度を出力。⁵¹
- 出力：候補一覧（表）→人が精読対象を選定。

パターン2：インタラクティブ明細書ドラフト（v0.1生成）

- 入力：発明説明（最小化版）＋図面（必要最低限）
- Manus：`taskMode=adaptive` または `agent`、必要なら `interactiveMode=true` で追質問を許可（不足情報の補完）。⁴
- 出力：構成案、実施形態案、請求項骨子→人がサポート要件・表現を調整。

パターン3：レビュー用ワークフロー（契約・FTOの論点表）

- 入力：契約書/クレームチャートの材料（マスキング）
- Manus：条項抽出・論点表・修正案叩き台
- 出力：法務/知財が最終判断（誤情報対策として根拠明示テンプレを必須）。

導入タイムライン (PoC→本番)

```
timeline
  title Manus×知財 導入ロードマップ (推定)
  2026-04 : PoC設計 (KPI定義・機密分類・禁止事項)
  2026-04 : 低機密データでPoC (調査/要約/表化)
  2026-05 : パイロット (案件管理連携・ログ/保全・権限設計)
  2026-06 : 本番準備 (DLP、監査、教育、運用ルール確定)
  2026-07 : 本番展開 (段階的に対象業務を拡大)
```

導入コスト見積り案 (例・推定、USD表記)

Manusのメンバーシップ価格はヘルプセンターで、Proとして「\$20/月 (4,000 credits〜)」や「\$40/月 (8,000 credits〜)」等が示され、クレジットはサブスク期間内に使い切り (繰越なし) と説明されています。⁵²

Wide Researchは有料ユーザー向けで、サブタスク当たりの消費上限50クレジット等の説明があります。¹⁸

コスト項目	PoC (推定)	パイロット (推定)	本番 (推定)	注記
サブスク (少人数)	\$20~\$40/人・月 ⁵³	同左	同左	Teamプラン詳細は未指定 (開始価格言及は別途)
クレジット超過分	0~ (推定)	変動 (推定)	変動 (推定)	消費はタスク性質に依存、繰越なし ⁵⁰
開発工数	1-3人週 (推定)	1-2人月 (推定)	2-4人月 (推定)	API統合+DMS+監査ログ
セキュリティ/監査	最小 (推定)	中 (推定)	大 (推定)	Export API/ログ/保全 ¹⁵
教育・運用整備	0.5-1人週 (推定)	1人週 (推定)	継続 (推定)	禁止事項、レビュー手順

事例・ユーザーテスト (公開情報の要旨と信頼性)

- Qiita⁵⁴ 投稿では、Manus 1.6でモバイルアプリ開発が可能になった旨や、具体プロンプト例が共有されています (個人の体験談であり、知財用途への直接外挿は要注意)。⁵⁵
- Reddit⁵⁶ では、ユーザー名や個人タスクが公開表示されているのでは、という懸念投稿があり、真偽は未確定ですが「共有・公開設定の誤運用が致命傷になり得る」ことを示すシグナルです。⁵⁷
- Google Playのレビュー例では「有料課金が認識されない」「Maxでバグ修正にクレジットを消耗」「基本タスクが不安定」等の不満が見られ、サポート体制・課金状態・品質ばらつきは業務導入時のリスクとして織り込みが必要で (レビューは個別体験で、再現条件は未指定)。⁵⁸
- YouTube動画 (指定済) では「Gemini/ChatGPTではなく、現在メインで使うAIとしてManusを紹介」「モデル詳細が公表されていない」等の趣旨が読み取れます (広告・プロモ要素の可能性を考慮し、知財用途ではPoCで実測が必要)。⁵⁹

実務向けチェックリスト

導入前 (PoC設計)

- 機密度分類 (公開/社外秘/営業秘密/個人情報/輸出管理等) と“Manus投入可否”を定義 (営業秘密三要件・

安全管理措置の観点を反映)。(60)

- 出力テンプレを標準化: 必須項目 (文献ID、根拠箇所、Unknownの明示、作成日時、担当者)。(39)

- 共有リンクの原則OFF (例外承認フロー)。(23)

導入時 (実装・パイロット)

- API統合: `agentProfile` / `taskMode` 設計、非同期 (status) 処理、Webhook/ポーリング、失敗時リトライ。(61)

- ファイル保持48hを前提に、自社DMSへ即時退避、ハッシュ・アクセスログ付与。(28)

- Team Owner権限の分離と監査ログ (誰が閲覧できるかを明文化)。(24)

運用時 (本番)

- 月次クレジット運用: 消化計画、案件ごとの上限、失効 (繰越なし) を前提に予算化。(62)

- 重大案件 (侵害分析/出願最終版/重要契約) は“二重レビュー”を必須化。

- インシデント対応: 誤公開 (共有リンク) 検知→リンク無効化→影響範囲特定→関係者通知→再発防止 (運用・権限・教育の更新)。(63)

未指定事項の明示 (依頼要件に従い列挙)

- 連携する外部特許DB/社内知財DBの具体名・API可否: 未指定

- Manus 1.6の基盤モデル (どのLLM群を使用するか)、学習データ更新、モデルアーキテクチャ詳細: 公式公開範囲では未指定 (Design Viewの画像モデルは明記)。(64)

- 企業向け契約条項 (SLA、データ所在地、越境移転、DPA等): 未指定 (契約で確認が必要)

1 7 16 56 Introducing Manus 1.6: Max Performance, Mobile Dev, and Design View

<https://manus.im/blog/manus-max-release>

2 9 10 51 Wide Research - Manus Documentation

<https://manus.im/docs/ja/features/wide-research>

3 29 30 31 39 43 54 DeepResearchEval: An Automated Framework for Deep Research Task Construction and Agentic Evaluation

<https://arxiv.org/html/2601.09688v1>

4 23 61 63 Create Task - Manus API

<https://open.manus.im/docs/api-reference/create-task>

5 14 21 22 26 28 33 36 38 OpenAI SDK Compatibility - Manus API

<https://open.manus.im/docs/openai-compatibility>

6 24 46 49 Who can see my tasks ?

https://help.manus.im/en/articles/11711929-who-can-see-my-tasks?utm_source=chatgpt.com

8 32 35 China bars Manus co-founders from leaving country amid Meta deal review, FT reports

https://www.reuters.com/world/asia-pacific/china-bars-manus-co-founders-leaving-country-it-reviews-sale-meta-ft-reports-2026-03-25/?utm_source=chatgpt.com

11 特許出願非公開制度について

https://www.jpo.go.jp/system/patent/shutugan/hikokai/index.html?utm_source=chatgpt.com

12 15 Manus

https://manus-93df2ee58c37.intercom-attachments-1.com/i/o/k7n2hgls/2034081755/4e32557775033a3b48cef470b00b/Enterprise_ediscovery_Data_expires=1774864800&req=diAkEsl2nlZaXPMW1HO4zY3GEh56Yigj50VAOhbGQxhLScaUJRIuc%2Beci0zn%0AmWd8hKjr9VE%3D%0A&signature=d6760c

- 13 45 Regulation (EU) 2016/679 of the European Parliament and ...
https://www.legislation.gov.uk/eur/2016/679/article/5?utm_source=chatgpt.com
- 17 18 What is Wide Research? | Manus Help Center
<https://help.manus.im/en/articles/11960169-what-is-wide-research>
- 19 PLEASE can you help with some manus API questions ...
https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1pweb80/please_can_you_help_with_some_manus_api_questions/?utm_source=chatgpt.com
- 20 37 64 Introducing Manus Design View
<https://manus.im/blog/manus-design-view>
- 25 Manus Compliance APIs | Manus Help Center
<https://help.manus.im/en/articles/13644620-manus-compliance-apis>
- 27 Integrate Manus with Your Existing Tools
https://manus.im/docs/integrations/integrations?utm_source=chatgpt.com
- 34 52 53 What is the current membership pricing for Manus?
https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus?utm_source=chatgpt.com
- 40 Manusによって生成された資産（ウェブサイト/画像/動画/スライド）の所有権は私にありますか？ | Manus Help Center
<https://help.manus.im/ja/articles/13125514-manus%E3%81%AB%E3%82%88%E3%81%A3%E3%81%A6%E7%94%9F%E6%88%90%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%9F%E8%B3%87%E7%94%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%96%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88-%E7%94%BB%E5%83%8F-%E5%8B%95%E7%94%BB-%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%89-%E3%81%AE%E6%89%80%E6%9C%89%E6%A8%A9%E3%81%AF%E7%A7%81%E3%81%AB%E3%81%82%E3%82%8A%E3%81%BE%E3%81%99>
- 41 Security
https://manus.im/security?utm_source=chatgpt.com
- 42 Trust Center - manus.ai
https://trust.manus.im/?utm_source=chatgpt.com
- 44 48 個人情報に関する法律についてのガイドライン（通則編）
https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/guidelines_tsusoku/?utm_source=chatgpt.com
- 47 不正競争防止法
https://laws.e-gov.go.jp/law/405AC0000000047?utm_source=chatgpt.com
- 50 62 What are the rules for credits consumption? And how can I ...
https://help.manus.im/en/articles/11711097-what-are-the-rules-for-credits-consumption-and-how-can-i-obtain-them?utm_source=chatgpt.com
- 55 Manusの使いどころを探る: 触って分かったことと制作例3つ
https://qiita.com/naoto714714/items/7e106dfed1105c565c56?utm_source=chatgpt.com
- 57 Er, does Manus have permission to share its user's real ...
https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1k24f1h/er_does_manus_have_permission_to_share_its_users/?utm_source=chatgpt.com
- 58 Manus AI - Apps on Google Play
<https://play.google.com/store/apps/details?hl=en&id=tech.butterfly.app>
- 59 GeminiでもChatGPTでもない。今一番使っているメインのAI ...
https://www.youtube.com/watch?v=2wHAAk_XQOU&utm_source=chatgpt.com

60 営業秘密管理指針

https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/guideline/r7ts.pdf?utm_source=chatgpt.com